



## NIIGATA 幼保小の架け橋プログラム

### 実践アイデア・コレクション

*A collection of practical ideas for the Kakehashi Program*

## CONTENTS

I 概論	幼保小の架け橋プログラム	2
1	幼保小の架け橋プログラムのねらいと内容	
2	幼児教育と小学校教育をつなげる工夫	
II アイディア-①	幼児教育施設編	5
1	環境設定の工夫	
2	保育者の働きかけの工夫	
3	活動の工夫	
4	交流の工夫	
III アイディア-②	小学校編	9
1	幼児期の体験の把握	
2	幼児期の体験を生かした授業づくり	
3	安心できる環境設定の工夫	
4	こどもの集中力を考慮した時間設定など	
5	学習指導案の工夫	
6	交流	
IV 資料	幼保小のつながる実践をより深めるために！	12
1	文部科学省関係資料	
2	新潟県幼保小架け橋センター	
参考資料	「幼小接続の視点を含めた指導案例」	14
・	5歳児保育指導案	
・	小学校1学年算数科学習指導案	

# I 概論

## 幼保小の架け橋プログラム

### 1. 幼保小の架け橋プログラムのねらいと内容

こどもは、幼児教育施設から小学校に移行していく中で、突然違った存在になるわけではありません。発達や学びは連続しており、幼児教育と小学校教育を円滑に接続する必要があります。しかし、遊び中心の幼児教育から学習中心の小学校教育へのギャップは大きく、うまく順応できないこどもたちも見られます。そうした中で、園児による小学校見学や行事の経験、職員同士の交流などの連携が進められているところです。

これまでの取組は、体験的な交流や就学に関する引継ぎなどが中心となる傾向にありましたが、これからはこどもたちの「学びのつながり」の段階へ進むことが求められています。5歳児から小学校1年生までの2年間の「架け橋期」ととらえ、幼保小相互が協力して架け橋期のカリキュラムを作成し、スムーズな連続する学びの実現に取り組むことが大切です。これらを進めるために「幼保小の架け橋プログラム」が示され、その内容は次の3つの柱でできています。



体制づくり(学区単位など)	取組 1 (カリキュラム)	取組 2 (活動)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園学校で連携窓口の設置</li> <li>・合同会議</li> <li>・合同研究会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・架け橋期のカリキュラムの検討・作成 (共同作成)</li> <li>・実施・評価・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の相互参観と協議会</li> <li>・こどもたちのねらいに応じた交流活動</li> <li>・保育改善、授業改善</li> </ul>

### 2. 幼児教育と小学校教育をつなげる工夫

こどもたちの学びの連続を理解するためには、内容や方法の異なるそれぞれの教育・保育を理解することが大切になってきます。幼児教育施設では、5領域の内容を遊びや生活を中心に総合的に学んでいきます。一方、小学校教育は、各教科別に学習していきます。そのため、なかなか相互のつながりが見えにくく、こどもたちの学びの接続に向けた保育改善や授業改善が、困難な状況が見られてきました。そこで、次のような取組のアイデアも見られます。



※ 幼児期の5領域：健康、人間関係、環境、言葉、表現（遊びなどを通して総合的に学ぶ）

※ 小1教科：国語、算数、生活科、音楽、図工、体育、特別の教科道徳、特別活動（教科別に学ぶ）

## (1) 遊びの中の学びを探るアイデア

例えば、積み木やブロックなど、年長児になると複雑で高度な組み立てに夢中になっている子もいます。この遊びの中にはどのような力が育まれているのか、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から見出し、小学校のどの教科の内容につながるのかなどを探る方法があります。またその逆に、小学校の参観時には、学習につながる幼児期の遊びや活動を探るようにしていきます。

保育・授業参観後の協議会などで、幼保小が協力し合って分析していくと学びのつながりが共有できるでしょう。

<遊びと学びの関連シート例> ※掛川市ジョイント活動参考

幼児教育施設での遊び等	主な 10 の姿	小学校での学習
積み木・ブロック遊び ・積み木やブロックで、お家や線路、電車、お城、タワーなど、友達と協力して組み立てていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同性</li> <li>・思考力の芽生え</li> <li>・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</li> <li>・豊かな感性と表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数：かたちあそび (立体図形の理解、分解、構成等)</li> <li>・図画工作：身近な素材の工作等 (空き箱などで動物村を作る等)</li> </ul>

小学校の授業	主な指導内容	関連する幼児期の遊び・活動
国語（話す、聞く） 「わたしのお話、ねえ聞いて」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能：語句の量を増やし、話の中で使う。</li> <li>・思考・判断・表現：互いの話に関心を持ち、話したり聞いたりする。</li> <li>・学びに向う力：進んで友達の話に関心を持ち、経験を生かして話したり応答したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークルタイム</li> <li>・朝の会の当番活動</li> <li>・友達との遊び場面 (ごっこ遊び、制作遊びなど)</li> <li>・読み聞かせと感想発表 等</li> </ul>

## (2) 学びをつなぐ資料の工夫（教育課程に関する情報提供）

これまで、幼児教育施設から小学校へ送る資料は、保育要録や配慮の必要な子の記録など、個別のものが主になっていました。しかし、学びをつなぐとき、教育課程に関する資料が必要です。例えば、幼児期に使用した教材や体験した遊び情報などが、小学校の授業づくりでとても参考となります。

### ① 共通教材の情報

宮城県白石市では、各幼児教育施設で経験している共通の遊び等を幼保小で共有することにより、小学校入学後に“みんなが知っている歌や遊び”を取り入れた活動がしやすくなり、児童の安心感や意欲的に取り組む姿につながっています。

この他にも、園で使用した楽器や絵画用具、体育用具なども、小学校の先生にとって、こどもたちのレディネスとして授業づくりに大いに参考となるでしょう。



<白石市の幼児教育施設共通教材一覧の例>

	題名	教材選定の理由
歌	ともだち賛歌	・いろいろな地域の保育園や幼稚園などから入学するこどもたち。国や地域が違っても同じ仲間友達意識が芽生える曲。
	1年生マーチ	・新しいランドセルで晴れ晴れとした表情で登校するイメージがもてる曲である。元気でリズムカルに口ずさんでほしい。
手遊び	グーチョキパー	・グーチョキパーを両手で示しながら、双方の手で何が作れるかそれぞれ見立てた形をイメージして楽しむ。
	お寺のおしょうさん	・ともだちと向き合って自分の手と友だちの手を交互にテンポよく触り歌が進む。最後にはジャンケンポンで勝負が決まる。
仲間づくり	じゃんけん列車	・じゃんけんが分かればだれでも遊べる。 ・勝てば先頭になったりチャンピオンになったりできる。 ・いろいろな友達と繋がったり関わったりできる。
	もちもちの木	・主人公まめたの勇気と葛藤のお話。弱虫でねしょんべんのまめたが、大好きなおじいさんを助けたい一心で頑張る姿に感動を感じる。
お話	はなさき山	・困っている人に寄り添う、優しくする、助けてあげる。自分がされてうれしいことを人にもやってあげよう、そんな気持ちにさせてくれる絵本。
	白石うーめん体操	・白石の名産品である白石温麺が題材になった体操である。歌詞の内容が動きを誘発させてくれる。口ずさみながら動ける体操。

② 遊びの中の学びと教科内容のつながりを見つける資料

幼児期における遊びの中には、5領域の内容が総合的に含まれていると言われますが、遊びの種類により学びの特色が見られ、教科の領域との関連性も探ることができます。園での遊びを小学校の先生と分析し、資料に整理して参考にすることも考えられます。次の表はその例です。

<遊びと国語の関連例>

領域	遊びの例
話す聞く	・紙芝居、ペープサート、劇、サークルタイム ・読み聞かせ、素話、伝言ゲーム、聖徳太子ゲーム～話を聞くカ～
書く	・絵描き歌、迷路、線なぞり、カルタ作り、お絵描き、看板づくり(お店屋さんごっこ)
読む	・ひらがなカルタ、カルタでしりとり、お手紙あそび、標識あそび、絵本
他	・しりとり、逆さ言葉遊び／回文遊び、言葉作りゲーム、いろはにこんぺいとう(マジカルバナナ)、早口ことば、あいうえおの歌

<遊びと算数の関連例>

領域	遊びの例
数と計算	・トランプ1ならべ、すごろく、神経衰弱、かずあそび 絵本、数字の歌、カレンダーづくり、お買い物ごっこ、おやつ配り、ビンゴゲーム
図形	・積み木、ブロック、パズル、形当てあそび、折り紙、ハンカチたたみ、お絵描きあそび、迷路あそび、紐通しあそび、片付け、仲間分けあそび
測定	・ボウリング、計りあそび(どっちが多い)、収穫祭、どんぐり集め ・時計、スケジュール
データ活用	・的当て・輪投げゲーム(点数表)




## Ⅱ アイディア-①

### 幼児教育施設編

年長児は、これまでの様々な遊びなどを通じた経験から就学に向けた力が大きく発達し、幼児期の無自覚な学びから、小学校の自覚的な学びの準備が育ってきています。遊びや活動などそれぞれの場面に必要な知識や技能を身に付け、調べ、探求し、使ってみよう、実践してみようとする力が見られます。幼児期では、遊びや生活場面に必要な力を点と点で身に付けていきます。そして、それらの力を基に、小学校では各教科の学習を系統的に学び深めていきます。

次に紹介する事例は、幼児教育施設で取り組まれた年長児の学びを促す実践アイデアです。

#### 1. 環境設定の工夫

<p>(1)時計の分表示</p> <p>小学校では、45分の授業などスケジュールによって活動が切り替わります。そこで、年長児のクラスでは、時計に分表示を貼り付け、予定を知らせ、時間を見て行動できる環境となるよう工夫します。カレンダーの掲示などもよいでしょう。算数の数字や時計の学習にも結び付いていきます。</p>	
<p>(2)掲示物の工夫</p> <p>年長児になると関心のある文字を読める子も増えてきます。クラスに「あいうえお表」を掲示し、日々ひらがなに関心を持ったり、遊びの中で必要により模写したりする環境設定も効果的です。国語の読み書きの学習にもつながっていきます。</p>	
<p>(3)書籍等の展示</p> <p>こどもたちの興味・関心を育てるため、虫や野菜などの飼育・栽培の取組も多いと思います。その時に、成長する変化、疑問などを解決するために、関係する図書を見えやすく展示することが効果的です。図書に触れることで探求心が育ちます。小学校の国語、算数、生活科などにつながるでしょう。</p>	

#### 2. 保育者の働きかけの工夫

##### (1) 学びを深める問い掛けの工夫

こどもたちの学びを深めるためには、保育者は指示や答えを伝えるのではなく、こどもたちに「問い掛け」をすることが大切です。「どうしてかな?」「どっちが多いかな?」「どうすればいいのかな?」など、こどもたちの考えや発想が深められるよう働きかけ、主体性や探求心を育てましょう。



## (2) 主体性を育む見守り

年長児になると自分たちで考え行動したり、友達と協力しながら遊んだりする姿も多く見られ、主体的な活動が活発になる時期です。そこで、保育者は基本的に見守る姿勢で観察し、問い掛けなどで必要なものを用意するなど、環境設定を工夫することが重要です。年長児のこどもたちが自ら考え、友達と相談しながら実行していく、学びの過程をサポートするようにしましょう。



## 3. 活動の工夫

### (1) テーマ活動(集団活動)の設定

園生活での遊びは個人の興味・関心により活動することが多いですが、小学校生活は集団活動が基本になります。そこで、年長児の月数が進むにつれて、集団的な活動を徐々に増やしていくことも、小学校とのギャップを解消しスムーズな移行に効果があると言われています。例えば、やさいづくり大作戦、おまつりごっこ、共同作品作りなど、こどもたちが相談しながら活動を考え、集団で取り組む活動です。目的を持った行動、協同性、自制心など、小学校生活で必要になる力を育てることに役立ちます。これらは、テーマ保育、プロジェクト保育などとも呼ばれます。



### (2) サークルタイムの活用

小学校の学習では、先生や友達の話をしっかり聞いたり、自分の考えや意見を発表したりする活動が多くなります。そこで、園生活でも「はなす・きく」ということが大切になります。近年、注目されている「サークルタイム」は、これらの力を養うために大変効果的だと言われています。集団遊びを決めるときや絵本の感想など、隊形を円形にしてみんなの顔が見えるように、話し合う活動です。友達の話をしっかり聞く態度、自分の意見は理由を述べて話すなど、学校の学習の基本的な力を養う大切な取組となります。



### (3) 学習を意識した遊び・ゲームの時間設定

幼児教育と小学校教育の違いの一つは、遊びが学習に変わることです。そこで、年長児は月数が進むにつれ、「ことば」や「かず・かたち」などに関する遊びやゲームを、時間を設定して取り組むことも効果があると言われています。クラス全体で取り組んだり、コーナー保育のように幾つかのゲームを設定し、関心のあるものに取り組んだりする方



法も考えられます。少しずつ教科への関心を高める取組も、スムーズな接続につながります。

#### 【参考】

海外では、就学前クラスはプレスクール※として、小学校の中や隣接施設に教室を設け、環境から慣れるようにし、遊び中心の活動から月数が進むにつれ徐々に授業を想定した活動が組み込まれ、スムーズな学校生活への接続を図っています。

※ この制度は、国によって呼び名は異なりますが取組は同様です。



#### (4) 当番活動

小学校での当番活動は、こどもたちが役割を分担し、協力して学校生活を運営し、自己肯定感や社会性、責任感などを養うため活発に取り組まれます。年長児でも、係の仕事を任せられ責任感や自信がもてることで同様の力を育み、小学校生活につなげていきましょう。



### 4. 交流の工夫

これまでも幼児教育施設と小学校で、交流活動を行っているところは多くあります。これからの交流は、何のために取り組むのか目的を明確にし、効果的な方法について検討して、実施・評価をしていくことが大切になります。次にその例をご紹介します。

#### (1) 小学校生活のイメージやあこがれをもつ

小学校生活の全体的なイメージをもつには、学校体験や行事への参加などが考えられます。校内の見学や授業参観、休み時間の様子、運動会や文化祭、児童会祭りなどへの参加をとおして、小学校への期待やあこがれが感じられるよう工夫してみましょう。



#### (2) 学習活動のイメージをもつ

幼児はこれまで、遊び中心の生活をしてきましたが、就学すると集団での学習活動が始まります。45分間机に向かい学習することは大きな変化となるでしょう。例えば、夏休み期間に小学校の協力を得ながら授業体験をすることも有効です。15分から20分程度の授業を2コマ程度体験し、学習活動のイメージを持たせることもよいでしょう。こどもたちは、小学校の先生から勉強を教えてもらったと、就学への意欲が高まっていきます。小学校の先生にとっても、来年度の就学児の様子を知るよい機会となります。



### (3) 環境への慣れや生活の仕方の違いの解消

幼児教育施設と小学校の施設は、大きさや雰囲気も異なり、入学したての頃は少し不安を感じるかもしれません。例えば、トイレなどの大きさや雰囲気も大きく変わり、抵抗感があるかもしれません。そして、教室、体育館、プールなども広く大きくなります。事前に参観したり、使わせてもらったりして、環境にも慣れていくことが効果的です。又は、学校施設の写真を園で掲示して、体験やイメージづくりをしていくことも考えられます。

給食体験を実施している学区もあります。学校の時間に合わせて食べたり、給食係の仕事を参観したり、また食べる量を調整したりする体験しています。

この他にも、手洗い・手拭き、着替えなどの仕方が異なることが考えられます。生活上の違いも洗い出し、年長児から生活習慣作りの準備をしていくことも効果的でしょう。

### (4) ドキュメンテーションの小学校への提供

小学校の先生方に幼児期の学び方を知ってもらう方法として、園で作成する「ドキュメンテーション」の提供も有効です。こどもたちの遊びの発展性や試行錯誤する姿を画像とコメントで紹介し、こどもたちの育ちを10の姿などから見取り、「学びの芽」として解説していくことが効果的です。そして、その遊びや活動は、どのような教科の内容につながるか、小学校の先生に教えてもらうこともよいでしょう。多くの先生方に見てもらうには、模造紙大の大きさが効果的だと思います。

小学校の先生方にとっても、来年度の新入生の情報や体験を知るよい機会につながるでしょう。



# Ⅲ アイディア-②

## 小学校編

### 1. 幼児期の体験の把握

小学校 1 年生の学びを考えると、これまで体験したり学んだりしてきたレディネスを確認することは大切です。それを確認するために、次のような方法があります。

#### (1) こどもたちに聞き取る

単元の導入などで、学習内容に関係する経験や遊びを聞き取り、その体験を生かしてこどもたちが主体的に話したり、活動に参加したりするきっかけを作っていくことが効果的です。

例えば、生活科「わたしのあさがお」では、幼児期の野菜栽培などの経験を引き出し、どのように育てたか、大切だったことは何かなどを思い返しながらか、あさがおとの共通点を見出して、これからのどのように活動していくか考えるきっかけにしていくことが考えられます。

#### (2) 前担任に聞き取る

幼児期の体験を幼児教育施設の担任の先生に聞き取ることもよいでしょう。例えば、体育の運動遊びでは、幼児期ではどのような器械・用具をどのように使っていたかを聞き取り、運動遊びなどでそれらの体験を生かした授業づくりをし、徐々に課題を高めていくことも考えられます。また、音楽の楽器の経験についても同様です。

#### (3) 資料から確認する

幼児教育施設から、幼児期に体験した教材などの一覧表をもらい、歌、おはなし、手遊び、ゲームなど、こどもが共通で知っているものを活用して一日をスタートさせたり、それらを授業に取り入れたりすることも、安心して学校生活を始めることには効果的です。

学習に関連しそうな幼児期の体験を引き出すため、園の行事や積み木などの遊具の写真を提供してもらい、こどもたちに具体的な画像をとおして体験の振り返りを促し、授業への足掛かりとして活用する方法もあります。

### 2. 幼児期の体験を生かした授業づくり

小学校 1 年生は、新しい環境や授業に対して期待とあわせて、緊張感ももっています。そこで、幼児期の遊びや体験を組み込むなど、レディネスを活用した授業づくりが効果的です。例えば、国語では“しりとりに遊び”



や“カルタ遊び”などを授業の内容によって適切に取り入れたり、体育の器械・器具を使った運動遊びでは、忍者ごっここの要素を入れたりして取り組むなど、これまでの遊びの経験を生かして、新しい課題への意欲を高めていくことが期待されます。

幼児期に体験したサークルタイムは、自分の意見を話す、人の意見を聞く、意見を調整して整理するなどの要素があります。小学校の「主体的・対話的で深い学び」につながる経験です。このような経験を授業や活動に取り込むことも、主体的な活動につながります。

### 3. 安心できる環境設定の工夫

小学校に入学したばかりの子どもたちは、新しい環境で何をどのように準備したり、片付けたりすればよいか分かりづらくなっています。そこで、朝の準備や帰りの片付けなどは、写真カードなどを掲示して、見て分かるように環境設定することも大切です。

子どもたちは、環境の大きな変化で緊張して学校生活をスタートすることでしょう。そこで、使った経験のある玩具を用意する「遊びコーナー」を設置するなど、幼児期の遊び中心の生活の要素を少し取り入れ安心できる環境づくりを行うことも効果的です。安心できるとまた集中力が高まってきます。

絵本の書架設置も大切な環境設定です。その際には、幼児期に読んだことのある絵本を用意することで、知っている絵本を楽しみ安心できる環境づくりにつながっていきます。

この他にも、幼児教育施設のクラスの様子を確認し、安心感を生み出すために、小学校生活に取り入れられそうなことを見つけていくことが大切です。

### 4. こどもの集中力を考慮した時間設定など

低学年の子どもたちの集中時間はおよそ 15 分程度といわれます。そこで、1 年生の学習では、15 分程度のモジュール授業を带状にとったり、45 分の授業時間は 15 分ずつ活動を変えて構成したりすることも、集中力の持続に効果が見られます。



5年1組  
時間割表

	月	火	水	木	金
1	国語	音楽	国語	音楽	国語
2	算数	図工	算数	図工	算数
3	理科	道徳	理科	道徳	理科
4	社会	生活	社会	生活	社会
5	体育	総合	体育	総合	体育
6	学活		学活		

## 5. 学習指導案の工夫

小学校1年生の授業づくりでは、幼児期の関係する体験や教材等の確認が必要です。これからの学習指導案は、「幼児期の学び」「架け橋の視点」などの項目を設定し、幼児期の体験や教材、育ちなどを確認して示すことが大切になります。学習レディネスの確認をしっかり行い、つながる学びの視点で示すことが大切です。

なお、このような接続の視点の項目は、単元設定の理由に組み入れてもよいでしょう。

## 6. 交流

小学校における幼保小の交流では、以下のようなねらいや効果が期待できます。

- ① 主体的に交流会を考えたり、実施したりする。
- ② 年下の子へ優しく接するなど関わりを楽しむ。
- ③ 自分のよさや成長を実感する。

1年生にとっては、自分たちで交流会の内容を考え、実行していく力を育むことができます。併せて、年長者として年下のこどもたちに優しく接することをとおして人と関わる心地よさを感じたり、自分の成長を実感したりする姿が期待されます。

★接続の視点を記載した学習指導案



# IV 資料

幼保小のつながる実践をより深めるために！

## 1 文部科学省関係資料

### (1) つながる学び

#### 幼児期及び幼保小接続期の教育に関する参考資料



##### 遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～

幼稚園等においては、子供たちに遊びを通して資質・能力を育てていること、その資質・能力は小学校以降の学習や生活の基盤となっていること等について、子供たちの遊んでいる姿や幼児教育施設と小学校の先生のインタビューを交えながら解説しています。



材料の小麦粉の量を量るなど

幼児期に遊びを通して育まれた資質・能力



表現力などの育成につながっています

小学校の学習や生活の基盤となっている  
幼児期に遊びを通して育まれた資質・能力

動画コンテンツ：<https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>



#### 幼児期及び幼保小接続期の教育に関する参考資料



##### 幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？

幼児教育と小学校教育の接続について、幼児期の遊びを通した学びと小学校の各教科等の学習のつながりを見える化し、幼保小の相互理解を促進するための参考資料です。

第1章「幼児教育と小学校教育」においては、それぞれの教育の特徴等を解説し、第2章「各教科等における学びのつながり」においては、幼児期の遊びを通した学びと各教科等の学習（小学校一年生で学習する全ての各教科等）とのつながり等を解説しています。



幼稚園等の  
遊びを通した  
学び



小学校の  
授業展開例




幼児教育及び小学校教育関係者向け参考資料  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html) (文部科学省HP)



書籍情報はこちらから  
[https://www.toyokan.co.jp/products/56592\\_pos-1&\\_sid-65306695&\\_ss=r](https://www.toyokan.co.jp/products/56592_pos-1&_sid-65306695&_ss=r) (東洋館HP)



(2) 幼児教育の理解 (  YouTube )

## 幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ

幼児教育施設・小学校での入園・入学説明会、保護者会、研修等や自治体主催の教職員研修など幅広く御活用ください。

※本動画の複製、転載、引用等の際には出典を明記する必要があります。



**幼児教育は何のため?** (約2分)  
<https://youtu.be/MExUaZ6M3G0>  
幼児期の大切な学びが分かる動画



**「遊びは学び」ってどういうこと?** (約7分)  
<https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>  
幼児教育施設においては、子供たちに遊びを通して資質・能力を育てていること等について、子供たちの遊んでいる姿や幼児教育施設と小学校の先生のインタビューを交えながら解説しています。



**「学びの芽」を育む園の工夫って? (多様な遊び編)** (約9分)  
<https://youtu.be/VNjOwpuDd44>  
幼児教育施設では、多様な遊びの中で、どのように子供たちの資質・能力を育てているのか、園長先生とベンちゃんがおムニバス形式で解説しています。



**「学びの芽」を育む園の工夫って? (どろだんご遊び編)** (約7分)  
<https://youtu.be/VuIP2CUKq-U>  
どろだんご遊びの中で、どのように資質・能力が育まれているのか、解説しています。



## 2 新潟県幼保小架け橋センター

### (1) 研修会サポート (訪問研修)

- ・ 幼保小の架け橋プログラムに関する合同研修会などのお手伝いをします。基本編、実践編、評価改善編など段階に応じて対応します。
- ・ 市内合同研修会、学区別研修会などのお手伝いをします。
- ・ 幼児教育の質向上に関する自治体、諸団体の研修会もお手伝いします。
- ・ 申込は、当センターホームページにある「訪問依頼書」に必要事項をご記入の上、メールにてご提出ください。(無料です。)



### (2) オンライン講座

- ・ 幼保小の架け橋プログラムに関する最新情報を先生方にお届けするため、オンライン講座を配信しています。「幼保小の架け橋プログラムに関する講座」と「幼児教育の質向上に関する講座」をライブ配信と、視聴しやすいようオンデマンド配信をします。ぜひご活用ください。
- ・ 申込は、オンライン講座案内又は当センターホームページでご確認ください。(無料です。)



## 参考資料

# 幼小接続の視点を含めた指導案例

### 【県内実践事例】

- ・ 5歳児保育指導案
- ・ 小学校 1 学年算数科学習指導案

## 5 歳児保育指導案

実践園：弥彦村立弥彦保育園

※ 下線部は、特に幼小接続の視点を意識した活動、環境構成、保育士の働きかけ

1 日 時 令和7年5月 9:45～11:15

2 対象児 5歳児

3 職員数 保育士2名

- 4 こどもの姿
- ・友達と一緒に廃材や画用紙などの素材を使って、イメージしたものを作ることを楽しむ。文字や数字にも興味を持ち、手紙を書くこどももいる。
  - ・自分の考えを言葉や動作で表したり、イメージを共有したりしながら友達と一緒に遊びを進める。
  - ・鬼ごっこやドッジボール、はないちもんめなど、ルールのある運動遊びを友達と一緒に楽しむ。

### 5 展開

時間	こどもの活動	環境構成・備考	保育士の働きかけ
9:45	○保育室で自由遊び ・友達と一緒に好きな遊びを楽しむ。 ・さまざまな素材を使い、制作をする。 ・遊びに必要な道具を作る。	・その日のスケジュールを掲示し、生活の流れを把握できるようにする。 ・画用紙や廃材などの素材や、のりやテープなどの道具をこどもが自分で選んで手に取れるように配置する。	・一人一人の発想や言動が他のこどもにも広がるように、遊ぶ姿や工夫している点などに共感したり伝えたりし、友達の動きに関心をもって遊ぶ姿を見守る。
10:20	○片付け ・続きにしたい遊びは、名前を付けて飾り棚に飾る。	・続きにしたい遊びを保管しておくようにする。	・あらかじめ終わりの時間を伝え、時計に印を付けておく。 ・それぞれのペースで片付ける様子を見守ったり手伝ったりしながら、次の活動を知らせていく。
10:30	○朝の会 ・ <u>サークル状に椅子を並べて座り、朝の会に参加する。</u> ・ <u>当番は朝の会の司会をする。</u> ・ <u>やりたいゲームを発表し、意見をまとめようとする。</u>	・友達や保育士の顔を見て、楽しい雰囲気の中で歌を歌ったり、話し合ったりできるようにする。 ・ <u>話し合いで出た意見をホワイトボード等にまとめる。</u>	・今日の予定をわかりやすく伝える。次に行くゲームを決めるために話し合いをすることを提案する。 ・意見を出し合いまとめようとする姿を見守る。話がまとまらないところは、方法を提案していく。
10:50	○集団遊び ・友達と一緒にゲームを楽しむ。	・安全にゲームができる場を用意する。	・友達と一緒にゲームをする楽しさに共感する。

# 小学校 1 学年 算数科学習指導案

実践校：魚沼市立小出小学校

※ 下線部は、特に幼小接続の視点を意識した記述、学習活動、手だて

1 単元名 「かたちあそび」 ～かたちはかせになろう！～

2 単元の目標

身の回りにあるものの形の特徴について、操作したり学級全体やペアで検討したりする中で、立方体や直方体など様々な形の性質を理解し、言葉で表現し仲間分けをしたり、特徴を生かして作品を作ったりすることができる。

3 単元で目指すこどもの姿

- ・身の回りにあるものの中から、形を認め、形の特徴を捉えることができる。【知・技】
- ・ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉え、言葉で表現する。【思・判・表】
- ・形について学ぶ楽しさを感じたり、図形の特徴を生かして作品を作ろうとしたりする。【学びに向かう力・人間性】

4 こどもと単元

(1) こどもの実態

学習に対する意欲が高いこどもが多く、積極的に発言をしたり活動に参加したりする姿が多く見られる。一方で、考えを交流し合う場面では、自分の考えを仲間に伝えることで満足してしまい、活動が停滞する傾向がある。幼児期は、遊びを通して仲間の考えをよく聞き、自分の中に取り入れて良い考えを生み出そうとする経験をしてきたこどもたちなので、小学校の学習でも意識を高めていきたい。

スタートカリキュラムの取組で行った「すきすきタイム」の工作活動では、仲間と廃材を持ち寄って活動し、共同で作品を作ったり、互いに相談をしながら作品を作ったりする姿が見られた。一方で、常に一人遊びを選択したり、遊びの中でトラブルが起きたりと、協同的な遊びの場面での課題が見られたため、集団の中でも円滑に活動に取り組めるよう、指導を続けていく。

算数科の学習全般においては、基礎的な内容については概ね理解ができているものの、理解したことを他者に伝えたり、互いの考えを比べたりすることに課題が見られる。要因として、こどもたちにとって仲間の考えを聞くことに興味が薄いことが考えられる。そこで、本単元ではゲーム性のある活動を取り入れることで、目的意識が生まれ、こどもたちが仲間の考えに興味をもつことをねらう。

(2) 幼児期の経験から得た学び

こどもが幼児期に経験した学びの中で、以下の経験が本単元につながると考える。

- A) 積み木遊びやブロック遊び、廃材遊びを通して、形を並べたり、積んだり、組み合わせたり、分解したりする楽しさを感じている。(②自立心⑥思考力の芽生え⑧数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚⑩豊かな感性と表現)
- B) ごっこあそびや、様々なミニゲームなどで、仲間と関わって遊ぶ経験をしている。(①健康な心と体③協同性⑨言葉による伝え合い)

(3) 本単元で期待する主体的・対話的で深い学びとそのための方策

本単元は、教科書では形を操作する活動の中で、形の特徴を捉えて言葉で表現し、特徴を生かして作図をしたり、作品を作ったりする学習である。まずは、幼児期に行っていたような廃材等を操作する活動を多く取り入れ、こどもたちに形への興味をもたせ、学ぶことへの意欲を高めていく。また、廃材等操作する中で、ペアでのゲーム性を含む活動を取り入れ、互いに考えたことや気付いたことを伝え合いながら、対話が生まれるようにする。その後、考えたことを全体で共有する場面において、自分の考えを言語化したり、仲間の考えを取り入れたりすることで、形を構成するそれぞれの特徴を整理する。そして、学んだことを生かして新たな課題に取り組んだり、日常生活の中で形を見い出そうとしたりする姿を期待する。

5 単元の指導計画

次	欄	主な学習内容	期待するこどもの姿	そのための手立て
1	1	箱を積み上げる遊びをする。	箱を積み上げる活動に興味をもち、楽しく活動をする。	様々な箱を用意し、箱を積み上げる <u>ゲームを行う。</u>
	2	立体図形の特徴を考えて仲間分けをする。	立体図形を比べながら、特徴を捉えてグループごとに名前を付ける。	それぞれの形にどんな特徴があるか、考えさせる活動を行う。
	3	形あてクイズをし、手触りをもとに形の特徴を捉える形あてクイズを行う。	楽しく活動に取り組み、形の特徴の違いを言葉で表現する。	様々な形を用意し、 <u>形当てクイズを行う。</u> サークルトークで、 <u>自由に発言できるようにする。</u>
	4	グループごとに箱を積み上げたり、形遊びをしたりしながら、転がりやすい形を見つけ、高く積み上げるために必要な特徴を捉える。	どんな形が積み上げやすいか、形の特徴をもとに考える。	積み上げやすい形と積み上げにくい形の両方を用意し、活動させる。
2	5	作りたい形を考え、形の特徴を生かした箱選びをし、作品を作る。	形の特徴を生かしながら、楽しく立体作品作りを行う。	学習したことを視覚的に残し、学んだことを生かして学習に向かえるようにする。
	6	集めた空き箱などの立体図形の面の形を写し取り、形の特徴を生かして作品作りをする。	形の特徴を生かしながら、楽しく平面作品作りを行う。	学習したことを視覚的に残し、学んだことを生かして学習に向かえるようにする。

6 本時の構想 (3/6)

(1) 本時の目標

箱の中の見えない積み木や空き箱などを手で触れてそれぞれの特徴について仲間と検討する中で、積み木や空き箱などの立体図形には面・辺・角などといった特徴があることを理解し、自分なりに立体図形の特徴を説明することができる。

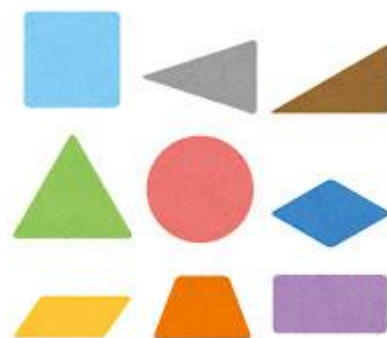
(2) 本時の展開

	こどもの追求の広がりや深まりと教師の支援	・留意点
【導入】 5分	<p>T:今日は、クイズ大会をします。箱の中に何が入っているか、当てましょう。</p> <p>昨日学習した、いろんな形を入れても当てられますか。</p>	<p>・文房具など身近な物でクイズをして、意欲を高める。その後、中身が形でも当てられるかこどもに問う。</p>
【展開1】 5分	<p>◎形の違いを当てるには どこを調べればよいか。</p> <p>C:似ている形もあるから、どうやって当てればいいのか。</p> <p>C:尖っているところと、丸いところがあるから、そこを触ればいいんじゃないかな。</p>	<p>・こどもの興味、疑問を取り上げながら、なるべく簡潔に本時の学習課題を設定する。</p>
【展開2】 25分	<p>T:色々な形が入った箱があります。ペアで協力して、どの形が入っているか一緒に考えてみましょう。</p> <p>C:長い四角があるから、これは長四角だよ。</p> <p>C:尖っているところがあって、四角の大きさが違うから、これは長四角だよ。</p> <p>T:どうやって、形の違いを当てたのですか？</p> <p>C:かどがあれば四角。長い四角があれば長四角で、同じ大きさなら四角。平べったいところがあるのが長丸で、平らなところがないのが普通の丸。</p> <p>C:まず触ってみて、尖っているところがあれば四角で、なければ丸。それから、平らなところを触って、長い四角か、普通の四角かを当てれば、見分けられる。</p> <p>T:この形(六角柱)はどれの仲間ですか？</p> <p>C:角があるから四角の仲間だと思うけど、似ていないところもあるね。</p> <p>C:尖っているところもあるけど、数が違うから、どの仲間でもないのかな</p>	<p>・全員が活動に向かえるようペアの数+<math>\alpha</math>で箱を用意し、色々な形に触れる環境を作る。</p> <p>・対話が生まれるよう、ペアで話し合い、答えを一つに絞る活動を組織する。活動時は、<u>伴走的な支援を心がけ、様子を見守る</u></p> <p>・一人一人の発言を取り上げ、全体に問い返ししながら、仲間の言っていることが形のどの部分にあてはまるのか、用語と具体的な箇所がつながるように考えさせる。</p> <p>・特徴の違いが分かるよう、フローチャートを用いて板書する。</p> <p>・時間がなければ、発問をしない。</p>

<b>【終末】</b> 10分	《まとめ》角や平らなところがあるか 調べればよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを用意し、こどもと一緒に操作しながらまとめを行う。</li> <li>・まとめを書いた後、再度形当てクイズをし、特徴ごとに見分けていくと仲間分けができることを全体で確認する。</li> <li>・振り返りを書く場を設定する。</li> <li>・単元を通して、1枚の振り返りシートを活用する。</li> </ul>
	T：みんながまとめたことを、振り返っていきましょう。	

C:似ている形もあるけど、角とか違うところを当てればいいんだな。  
 C:いろんなところをさわれば、角とか違うところが見つけれられる。

## 箱の中身はな〜んだ？



*NIIGATA  
KAKEHASHI  
CENTER*

**新潟県幼保小架け橋センター**

事務局：新潟県教育庁義務教育課内

〒950-8570 新潟市中央区新光町 4-1

Mail : [ngt-youji@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt-youji@pref.niigata.lg.jp)

Tel : 025-280-5220